

聖書和訳史の一断面

—口語訳のRSVへの依存について—

小西 哲郎

Abstract

This article examines a mistranslation found in the passage of Matthew 6.17 in The Colloquial Japanese Version of the Bible (in Japanese, the title is “Seisho, Kogo-yaku”). In the original Greek version of the New Testament, the passage mentioned above uses the subject “you” in the singular form (“σύ”). In The Colloquial Japanese Version however, the same passage uses the subject “you” in the plural form (“Anatagata”). As The Colloquial Japanese Version was supposed to be translated mainly from the English Version commonly known as the Revised Standard Version of the Bible, I believe this to be the root cause of the mistranslation. In other words, I think the mistranslation has to do with the differing uses of the subject “you” in Greek with that of English. In this article, I attempt to explain how and why such an elementary mistake took place. In hopes of avoiding these types of mistranslations in the future, I propose that there be a closer connection between the American Bible Society with the Japan Bible Society.

I. 問題の所在

わたしたちが手にする聖書は、所詮、どれも訳本に過ぎない。翻訳であれば、聖書であっても誤訳はありうる。ⁱ 例えば、イエス・キリストの「山上の説教」ⁱⁱの一節が『聖書』（口語訳）ⁱⁱⁱでは以下のように訳されている。

「あなたがたは断食をする時には、
自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい」

（マタイ福音書6章17節、太字は筆者による）

これは、明らかに誤訳である。この原文は主語が単数二人称なので、日本語訳では「あなた」と訳すべきところだからである。^{iv} この口語訳の翻訳に際しては「ドイツ聖書協会発行のネストレ校訂最新版^vを用い」^{vi} るとうたわれている。この訳文のギリシャ語原文は以下の通りである。

οὐ δὲ νηστεύων ἀλειψαί σου τὴν κεφαλὴν

καὶ τὸ πρόσωπόν σου νίψαι,

本論では、この文の主語がなぜ「あなたがた」と誤訳されてしまったのかを検証する。そして The Revised Standard Version (以下RSV)^{vii} の非常に大きな影響が誤訳の原因であることを指摘し、日本聖書協会とアメリカ聖書協会との密接な関係がその背景にあったことを述べる。

II. マタイ6章17節の誤訳とその背景

誤訳の原因を究明するために、まず当該箇所を含む前後の文脈を見てみよう。マタイ福音書の16～18節は断食についてのイエスの教えである。便宜上ここでは、現在日本でもっとも普及している新共同訳^{viii}に続いて、本論で問題にする口語訳、およびギリシャ語原文を併記する。

16節 新共同訳 「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

口語訳 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

原文 Ὅταν δὲ νηστεύητε, μὴ γίνεσθε ὡς οἱ ὑποκριταὶ σκυθρωποί, ἀφανίζουσιν γὰρ τὰ πρόσωπα αὐτῶν ὅπως φανῶσιν τοῖς ἀνθρώποις νηστεύοντες ἀμὴν λέγω ὑμῖν, ἀπέχουσιν τὸν μισθὸν αὐτῶν.

17節 新共同訳 あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。

口語訳 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

原文 σὺ δὲ νηστεύων ἄλειψαί σου τὴν κεφαλὴν καὶ τὸ πρόσωπόν σου νίψαι,

18節 新共同訳 それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」

口語訳 それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所に

おいでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。

原文 ὅπως μὴ φαίῃς τοῖς ἀνθρώποις νηστεύων ἀλλὰ τῷ πατρὶ σου τῷ ἐν τῷ κρυφαίῳ καὶ ὁ πατήρ σου ὁ βλέπων ἐν τῷ κρυφαίῳ ἀποδώσει σοι.

Iでも触れたが、17節は文の主語(σὺ、「あなた」)が単数二人称であり、それに応じて分詞(νηστεύων、「断食するとき」)¹⁶、一つ目の動詞(ἀλειψαί、「油をつけよ」)¹⁷、二つ目の動詞(νίψαι、「洗え」)¹⁸、一つ目および二つ目の動詞の動作対象(頭、顔)を修飾する語(σου、「あなたの」)¹⁹と、文を構成する要素すべてが単数二人称である。それゆえ、どこで切ってもここは単数しか出てこないところである。なおギリシャ語原文では17、18節は一続きの文章であり²⁰、18節にも単数二人称が続く。

以上の観察の結果、マタイ6章16～18節は一続きの発話であるにもかかわらず、文の主語が単数であったり複数であったりとまちまちであることが確認された。実はこの箇所に限らず、このような主語の単複混用は「山上の説教」に一貫して見受けられる現象であり、これが誤訳を生んだ遠因であることは想像に難くない。つまり問題の箇所の前節(16節)が複数二人称(あなたがた)を主語とする文であるゆえ、17節を訳す際、それにつられた訳者が主語の単数・複数を勘違いしてしまった、と説明することができる。

しかし後で述べるように、これは二次的な原因に過ぎない。より直接的な原因が存在するのである。

III. 口語訳のRSVへの依存

結論から先に述べると、誤訳の主因は翻訳に際して用いられた参考書の影響である。つまり口語訳は「ギリシャ語原文に忠実かつ正確に訳出すること」^{xiv}をうたいながら、実のところアメリカの当時最新の翻訳であったRSVの影響を濃厚に受けている。^{xv} その結果、ギリシャ語原文の問題（主語の単複混用）だけに帰することのできない誤訳が生まれたと考えられる。次にその点を明らかにしていこう。

A. 口語訳の下敷きとなったRSV

口語訳に限らず日本聖書協会刊の邦語訳聖書がことごとく英訳聖書の影響を受けてきたことは、田川が批判的に指摘している。^{xvi} その中で彼は「口語訳はRSVをモデルとして」おり、「その重訳に近いと言っても過言でない」と述べている。^{xvii} では口語訳がRSVにどれほど依存しているかを、実際に訳文を比較しながら見てみよう。

1. 具体例（1） マタイ福音書1章2節

新共同訳 アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、（…もうけた。）

口語訳 アブラハムはイサクの父であり、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちとの父、（…であった。）

R S V Abraham was the father of Isaac, and Isaac the father of Jacob, and Jacob the father of Judah and his brothers,

原文 Ἀβραάμ ἐγέννησεν τὸν Ἰσαάκ, Ἰσαάκ δὲ ἐγέννησεν τὸν Ἰακώβ, Ἰακώβ δὲ ἐγέννησεν τὸν Ἰούδαν καὶ τοὺς ἀδελφοὺς αὐτοῦ,

新約聖書の巻頭に置かれているイエス・キリストの系図である。同じような文体が16節まで続くので、ここではその一番最初の節（2節）

だけを取り上げるが、これは2節から16節までに共通して言えることである。

原文では“ἐγέννησεν”（生んだ）^{xviii}という動詞が繰り返されている。これは本来「生む」行為をさす。ところが「～の父（であった）」という訳文は、「である」状態をさしている。それゆえ、このギリシャ語原文と「～の父（であった）」という訳語は直接には結びつきにくい。また、そもそも日本語ではAがBを生んだという関係を表す時、「AはBの父（あるいは母）」とは言わずに、「BはAの子」と言う方が自然である。

それでは、どうしてこのような訳が生まれたのか。それはRSVを見れば一目瞭然である。RSVがここを“was the father of…”と訳しており、口語訳はそれに倣ったのである。

2. 具体例（2） ローマ書3章25節

新共同訳 神はこのキリストを立て、その血によって、信じる者のために罪を償う供え物となさいました。

口語訳 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。

R S V ...Christ Jesus, whom God put forward as an expiation by his blood, to be received by faith.

原文 ...Χριστῷ Ἰησοῦ ὃν πρόεθετο ὁ θεὸς ἱλαστήριον διὰ [τῆς] πίστεως ἐν τῷ αὐτοῦ αἵματι ...

これは田川によって「あまりにもはっきりしている例」として挙げられているものである。^{xix} このパウロのギリシャ語は翻訳の難しいところではあるが、原文の“διὰ [τῆς] πίστεως”（信仰による）という句に動詞を補って「信仰をもって受くべき」と口語訳が訳した理由は、RSVが原文にない“to be received”という句を補っているからと説明できる。また田川はこの“to +不定詞”の「～（す）べき」とい

う訳し方が、極めて露骨に日本の学校英語的英文和訳方法であると述べている。^{xx} (ちなみに新共同訳の「信じる者のために」は意識である。^{xxi})

3. 具体例(3) 一コリント書 3章3節

新共同訳 …あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。

口語訳 …あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

RSV ...are you not of the flesh, and behaving like ordinary men?

原文 ...οὐχὶ σαρκικοί ἐστε καὶ κατὰ ἄνθρωπον περιπατεῖτε;

田川は、ここでパウロが「人間」と「霊」とを対照させており、“κατὰ ἄνθρωπον περιπατεῖτε” (直訳すれば「人間によって歩む」) という表現は「神的秩序によってではなく、此の世的な在り様をしている」ということを意味すると説明している。^{xxii} 「霊」あるいは「神」と比較しての「人間の在り様」が問題となっているのである。口語訳のように訳すと、それが「特別な人間」と「普通の人間」との対照になってしまっていて、意味合いが異なってくる。そしてこの訳は、「ギリシャ語の原文をパウロ思想のコンテキストの中で眺めている限り、まず思いつく表現ではない。」^{xxiii} これも「RSVを直訳し」^{xxiv} た結果の産物である。すなわち、原文にない「普通の」という語を補い、前置詞“κατὰ”(～によって)を「～のように」と変更した点にそれが表れている。

以上「ギリシャ語から直接翻訳」した、とは言うものの、実態として口語訳がRSVに依拠していることを具体例によって示した。

B. 誤訳の主因

このように、口語訳がRSVに大幅に依存した翻訳である以上、この誤訳の原因はギリシャ語原文よりもむしろRSVとの関連で考察されなければならない。それでは次に問題の個所の新共同訳・口語訳の訳文とRSVの訳文とを並べて考察してみよう。

マタイ福音書6章17節

新共同訳 あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。

口語訳 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

RSV But when you fast, anoint your head and wash your face,

RSVの訳文をみると、それまで伝統的に“thou”と訳されていた^{xxv}主語が、現代風に“you”に変更されている(二重下線部)。^{xxvi} 言うまでもなく二人称主格の“you”は、現代英語では単数・複数同形であり、動詞も主語の数によって変化しない。それゆえこの変更によって、この文章の主語が「あなた」なのか「あなたがた」なのか、一目見ただけでは、区別がつきにくくなってしまったといえる。よく見れば、続く“your head”や“your face”といった語が単数形なので、主語は単数であるらしいと見当がつく。しかし前節(16節)の複数二人称の“you”に続いて、形が同じ“you”が17節に出てきた場合、RSVばかりに気をとられていると、それが単数に代わっていることを見逃しかねない。

さらに“νηστεύω”(断食する)という語に注目されたい。ギリシャ語テキストにおける16節のそれは接続法(νηστεύετε)、一方17節は現在分詞(νηστεύετε)であり、似ているとは言い難い。しかしそれがRSVでは“And when you fast,...”(16節)と“But when you fast,...”(17節)という具合に、よく似た文になってい

る^{xxvii}ことも、思い違いを助長したと考えられる。

以上の考察からこの誤訳は、ギリシャ語テキストを疎かにして、参考書(RSV)を参考にし過ぎたあまり、その“But when you fast...”という文の主語を、複数二人称「あなたがた」と取り違えた結果生じたものである、と言えよう。RSVで採用された現代英語の二人称が単数・複数とも同形“you”であることが「落とし穴」になった。

C. 誤訳とその対策

ちなみにこのマタイ福音書6章17節は、もとの訳(いわゆる大正改訳)^{xxviii}では、

「なんぢは斷食するとき、^{かしら}頭に油をぬり、^{かは}顔をあらへ」

となっていた。正しく単数形(なんぢ)に訳されていたのである。そもそもこの古い訳を現代風に改訳しようとしてこの口語訳の事業は始まった。^{xxix} それゆえ改訳の対象であった文語訳の訳文を、訳者は睨みながら作業をしていたはずであるが、どうやらその元訳よりもRSVの方により多くの注意が払われていた、ということがこの誤訳から想像されるのである。

翻訳に当って、先行訳がある場合にそれを参照することは、悪いことではない。むしろ辞書と原典だけを頼りに独力でなされた翻訳よりも、他の参考書を用いた方が(つまり他の研究者の力を借りた方が)より良い翻訳になることも多い。特に対象が聖書のような、古来無数の翻訳がなされており、その翻訳史だけでも膨大な領域を形成するような古典のばあいは、諸訳を比較参照するべきである。そこでは翻訳の伝統・研究の蓄積を無視して作業してもあまり意味がない。むしろ訳語や文のリズムなどの伝統を尊重した訳文の方が結局は長持ちする。それは歴史が証明している。^{xxx}

そこでこの誤訳の問題を追求して得られた教

訓の一つは、「参照するならば、一つの資料だけに依存するのは危険である」ということである。幅広く情報を集めるに越したことはない。そうすることで、情報不足から来る思い違いや判断ミスの危険を回避する可能性を高くすることができる。

その意味で、翻訳の長い伝統がある他言語の訳も参考にすべきである。人称代名詞の問題一つを取り上げても、たとえばドイツ語には二人称主格に単数・複数の区別“du(もしくはSie), ihr”がある。また英訳を参照するにしても、RSVだけでなく、せめてKJVをも参照していれば、このような誤訳は生まれなかったかもしれない。KJVは古風な英語で書かれており、二人称主格に単数・複数の区別“thou, ye”があるからである。

D. 責任の所在

それでは、この誤訳の責任者は一体誰だったのか。

口語訳の作業にあたっては、旧約・新約それぞれ三名の専門委員からなる改訳委員会が設けられた。^{xxxi} 新約の委員は最初、富森京次・村田四郎・松本卓夫^{xxxii}であったが、富森が健康上の理由で高橋虔^{xxxiii}に、村田は明治学院大学長の重責ゆえ山谷省吾^{xxxiv}に交代したので、実際の作業はほとんど松本(委員長)・高橋・山谷で行われた。^{xxxv}しかしマタイ福音書の担当者が誰だったのかは特定できない。日本聖書協会の「新共同訳」聖書の翻訳に携わり、その「マタイによる福音書」部分の翻訳を担当した橋本滋男(同志社大学神学部教授、新約学)は、「誰がどこを担当というのではなく、全部を三人がやったのではないかと推測している。^{xxxvi}

自身が聖書協会で翻訳作業をした経験から、橋本は「最初の担当者が出した翻訳はその後の共同検討作業でかなり変更され」ており、できあがった訳文については「個人の業績(プラス

にもマイナスにも)とはならないと思」うのと
べている。^{xxxvii} それが口語訳の翻訳委員会にも
当てはまるならば、できあがった訳文は委員会
の責任による委員会の訳というほかなく、それ
を最初に翻訳したものが誰であったかを特定し
ても意味はないことになる。「まさに共同訳」^{xxxviii}
であるが、このような委員会の仕事であれば、
その責任は委員長にあると言わざるを得ないだ
ろう。しかし責任の所在はともかく、次に述べ
るように、これには情状酌量の余地がある。

IV. 日本聖書協会の和訳と英訳聖書

これまでの考察によって、口語訳のマタイ福
音書6章17節が誤訳であり、その主因は訳者の
RSVへの依存であったことが分かった。翻訳
におけるそのような依存関係は、その翻訳を生
んだ背景の諸事情を反映している。別の言い方
をすれば、それは日本聖書協会のアメリカ聖書
協会への依存の表れである。本論の最後に、聖
書和訳史および日本聖書協会とアメリカ聖書協
会との密接な関係について、概観しておきたい。

A. 聖書協会以前

現存する最古の和訳聖書(断片)は1580年こ
ろのものである。^{xxxix} その後のいわゆるキリシ
タンの時代にも断片的に聖書の和訳はなされて
いたようであるが、聖書に含まれる一つ以上の
文書を和訳し公刊したのは、プロシヤ生まれで
オランダ伝道協会の宣教師カール・ギュツラフ
(Karl F. A. Gutzlaff)であった(1837年)。^{xl}
その後、日本に到着した宣教師たちが次々に聖
書の和訳を試みている。代表的な人物は幕末に
来日したヘボン(James C. Hepburn)であり、
彼は他の宣教師たちと翻訳委員会を組織し
て、後に聖書全体の訳を完成、出版した。^{xli}こ
の和訳聖書(いわゆる明治訳)を含め、聖書
和訳史上最も重要なものは聖書協会が発行して
きた。

B. 日本聖書協会

日本における聖書協会の活動は、1875年に北
英国(スコットランド)聖書会社(National
Bible Society of Scotland、NBSS)が横
浜で事業を始めたことに始まる。^{xlii} 翌1876年
には米国聖書会社(American Bible Society、
ABS)および大英国聖書会社(British and
Foreign Bible Society、BFBS)がそれ
ぞれの支社を横浜に開設した。^{xliii} その後NB
SSとBFBSは本拠地を神戸に移し、この三
つの聖書会社は1904年から聖書普及事業を分担
して展開していった。^{xliii} 日本聖書協会は1937
年に誕生したが、これは上記の米英聖書協会が
「日本聖書協会」の「東部」と「西部」と改称
したものにすぎない。^{xliii} このように日本にお
ける聖書の普及には、最初から英米の聖書協会
が中心的役割を果たしていた。とりわけ聖書の
出版事業においては資金面で全面的に彼らのお
世話にならざるをえず、聖書和訳に際しても英
米の宣教師たちが圧倒的な影響力を及ぼして
いたであろうことは想像に難くない。明治訳お
よび大正改訳の翻訳の中心メンバーはすべて外
国人宣教師たちであった、という事実がそれを物
語っている。日本人だけによる聖書の和訳は、
口語訳が初めてであった。これは聖書和訳史上
画期的なことであった^{xliii}が、やはりABSお
よびBFBSの資金援助をえて着手された事業で
あった。^{xliii} それゆえ日本人メンバーだけによ
る翻訳とて米英聖書協会の影響を受けずには
いられなかった。

日本聖書協会が経済的にも自立するのは、日
本が第二次世界大戦後の急速な経済成長期にあ
る1969年のことである。^{xliii} したがって口語訳
(新約は1954年発行)は、日本聖書協会がまだ
海外の(主として米英)聖書協会から補助金
を受けつつ運営されていた時点で刊行されたとい
うことは認識しておく必要がある。さらに口語
訳の翻訳が開始された1951年の日本は、未だ連

合国の占領下（1945～1952年）にあった。日本がアメリカべったりであったとしても不思議ではない。

このように聖書と訳史における米英（聖書協会）の存在は巨大なものであり、口語訳はそこからの自立の第一歩であった。占領下の日本において、それはまず日本人による日本人のための翻訳という形で始まった。英語文化への依存体質が引き続き存在したことは本論で見た通りであるが、このような誤訳はそれを改めて浮き彫りにする。これをもって、翻訳上の問題としての誤訳の再発防止とともに、アメリカ依存ではない日本人による主体的な歴史形成のための材料の一つとしたい。

参考文献

1) 聖書

Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece
(27. revidierte Auflage), Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1898, 1993.

The Holy Bible (King James Version, 1611),
Word Aflame Press, Missouri, 1973.

The New Testament (tr. Moffatt, J., 1922),
Harper & Brothers Publishers, New York,
1935.

The Holy Bible (Revised Standard Version,
New Testament 1946, 1971), American Bible Society, New York 1993.

The Harper Collins Study Bible
(New Revised Standard Version 1989),
Harper Collins Publishers, New York, 1989.

Bible Works for Windows (Ver. 3.5),
Hermeneutika Software, Big Fork,
Montana, 1996.

『新約聖書』（文語訳）日本聖書協会、1917年。

『新約聖書』（口語訳）日本聖書協会、1954年。

『新約聖書』（新改訳）日本聖書刊行会、1975年。

『新約聖書』（新共同訳）日本聖書協会、1987年。

2) その他

浅見定雄『旧約聖書に強くなる本』

日本基督教団出版局、1977年。

海老沢有道「日本の聖書」『新約旧約聖書大辞典』
教文館、1989年。

門脇清・大柴恒『門脇文庫 日本語聖書翻訳史』
新教出版社、1983年。

田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房、
1997年。

日本聖書協会編『日本聖書協会100年史』

日本聖書協会、1975年。

日本聖書協会編『日本聖書協会125年史』

日本聖書協会、2001年。

日本聖書協会ホームページ (<http://www.bible.or.jp>、2003年8月25日参照)。

注

¹⁾しかし他の翻訳書と比較すると、聖書の誤訳は圧倒的に少ないと言えよう。それは長年にわたる翻訳の伝統があるからである。口語訳聖書が十分信頼するに足るものである、と浅見は述べている（浅見、11ページ）が、基本的にはその意見に筆者も賛成である。田川もまた口語訳を高く評価している（田川、625、626、644、645ページ）。

²⁾マタイによる福音書5章から7章にわたるイエスキリストの説教。「イエスはこの群衆を見て、山に登られ」（5章1節）、そして教えられたというところから、このように呼ばれている。

³⁾初めは「現代語訳」と呼ばれていた（『日本聖書協会100年史』170ページ、『日本聖書協会125年史』16ページ、門脇230ページ）。第二次大戦後の新仮名遣い・当用漢字の導入などにより、古い訳（文語訳）を全面的に改める必要があったことから1951年に改訳が始められ、1954年に出版された（『日本聖書協会100年史』167ページ、『日本聖書

協会125年史』16ページ)。本論では以下「口語訳」と言う。

^vちなみに新共同訳聖書（以下「新共同訳」、注^{viii}を参照）ではここは「あなた」に再訂正されている（IIを参照）。

^{vi}1898年にEberhard Nestleが創刊した新約のギリシャ語テキスト。脚注に大量の異読が載っている。

^{vii}『日本聖書協会100年史』168ページ、また『日本聖書協会125年史』16ページ。これが建前に過ぎず、実際の翻訳作業がこの方針に反していたことは後述する。ところで、この「最新版」が何版であったのかは定かではない。翻訳作業中の1952年にNestleの21版（この版からKurt Alandが校訂に参加）が出版されているが、これが当時の最新版であったので、改訳委員会はおそらくこの版を入手していたであろう。あいにく筆者はその版を入手できなかったので、本論ではギリシャ語原文にNestleの26版を使用しているが、本論で取り上げる個所でこれらの版の違いが問題になることはない。

^{viii}1611年に発行されたThe King James Versionの改訂であるThe American Standard Version (1901年)の、そのまた公式な改訂である(*The Holy Bible* [Revised Standard Version], p. iii.)。新約の部は初め1946年に出版され、その後1971年に改訂された(同書、p.vii.)。その歴史的事情は同書の序文に詳しい。

^{ix}プロテスタントとカトリック双方からなる「共同訳聖書実行委員会」によって、1987年に日本聖書協会から発刊された。

^x現在分詞能動の男性主格。

^{xi}アオリスト命令形（命令形は瞬間的な動作の命令に用いられる）の中動態。

^{xii}アオリスト命令形の中動態。

^{xiii}二人称代名詞の属格。

^{xiv}Nestleの区切りではそうになっているということ。
“καὶ”（そして）以下は、別の文であるということもできる。理由はここで主語が“ὁ πατήρ σου”

（あなたの父）に代わっているからである。

^{xv}日本聖書協会報『聖書と日本』第8巻第4号（1951年11月）17ページ（門脇233ページによる）、また『日本聖書協会100年史』168ページ、『日本聖書協会125年史』16ページ。

^{xvi}RSVの口語訳への影響は田川によって指摘されている（田川486、634、644、645、647ページ）。なお海老沢は聖書協会の口語訳事業について、「旧約はキッテル（Rudolf Kittel）校訂のBiblia Hebraicaの改訂3版（'37）、新約はアメリカの改訂標準訳（RSV、'52）を参考とし、原典から新訳した」と述べているが（864ページ、左）、この文は不正確である。これでは旧約のBiblia Hebraica（正確にはBiblia Hebraica Stuttgartensia、BHS）がRSVと同列の参考書と誤解されかねない。もちろんBHSはヘブライ語原典である。

^{xvii}これについては『書物としての新約聖書』の第四章の八「日本聖書協会訳と英語訳のつながり」（634～648ページ）に詳しい。

^{xviii}田川634ページ。しかし彼それは「口語訳にとって幸いなことであった」とも述べている。それは基礎にRSVが置かれたゆえに「あの拙速の作業でありながら、非常にすぐれた訳を提供できた」（644ページ）からである（626ページも参照）。

^{xix}“γεννάω”の単数三人称能動態のアオリスト。

^{xx}同書645、646ページ。ここでは基本的に田川の解説に従って紹介する。

^{xxi}同書、645ページ。

^{xxii}ここもまた他の英訳聖書（TEV?）に引っ張られた可能性がある。

^{xxiii}同書、646ページ。

^{xxiv}同書、647ページ。

^{xxv}同ページ。

^{xxvi}厳密に言えば、1922年のMoffatt訳がすでに“you”を採用している。しかしこれは個人訳であるので、ここは「KJV、RV、ASVにつらなる諸教派合同の委員会訳の伝統において」という意味である。なおMoffatt訳はRSVに影響を与えている

が、これについては別に考察する必要がある。

^{xxvi}しかしRSVは部分的にこの古風なスペリングを採用している。「主の祈り」(マタイ福音書6章9～13節)等を参照。

^{xxvii}ちなみにこのRSVの訳はRSVで初めてなされた変更ではなくKJV, ASVの伝統に則ったものである。

^{xxviii}「明治訳」(注^{xiii}を参照)の新約が後に改訳され、1917年10月に出版されたもの。(日本聖書協会ホームページ、http://www.bible.or.jp/info/inf07_07.html、2003年8月25日)。ちなみに、いわゆる「文語訳」は1888年完成の明治訳の旧約と1917年刊の大正改訳の新約とを合わせたものの通称である。

^{xxix}『日本聖書協会100年史』167ページ。『日本聖書協会125年史』15ページ。

^{xxx}たとえば、最近では『新約聖書 共同訳』(1978年)がその悪しき事例である。「文語訳」(注^{xxviii}を参照)や「口語訳」が今なお現役で流通しているのに比し、同書はすでに絶版となっている(2003年8月現在)。また田川は日本語訳の聖書の寿命の短さと、その翻訳作業期間の短さととの関連を指摘している(田川、619ページ)。

^{xxxi}1950年12月25日の聖書協会の理事会で口語訳への改訳が正式に決定された(門脇、230ページ)。

^{xxxii}1888年盛岡生まれ。関西学院神学部、シカゴ大学、ユニオン神学校等に学ぶ。神学博士。青山学院神学部教授、広島女学院長等を歴任(『日本聖書協会100年史』169ページ)。

^{xxxiii}1903年明石生まれ。同志社大学文学部神学科、イエール大学神学部および大学院に学ぶ。同志社大学神学部教授、神学部長等を歴任(『日本聖書協会100年史』170ページ)。

^{xxxiv}1889年岡山生まれ。第六高等学校、東京帝大法学部に学ぶ。第四高等学校教授、第三高等学校教授、信濃町教会牧師等を歴任。文学博士。

^{xxxv}『日本聖書協会100年史』167、168ページ。『日本聖書協会125年史』15、16ページ。

^{xxxvi}筆者への私信(eメール、2003年8月20日付)。

^{xxxvii}同。

^{xxxviii}同。

^{xxxix}松田毅一氏が1960年にエヴォラ図書館から整理を依頼された際、古屏風の下張りから発見したものの。旧約「コヘレトの言葉」3章7節の「云ヘキ時アリ、モタスヘキ時アリ」という訳文が残っている(http://www.bible.or.jp/info/inf07_01.html、2003年8月25日)。

^xhttp://www.bible.or.jp/info/inf07_02.html、2003年8月25日。また『日本聖書協会100年史』21～24ページ、田川617ページ。

^{xi}ヘボン、S.R. ブラウン(Brown)を中心に「翻訳委員社中」が結成され、1880年に新約が完成した。これがいわゆる明治訳である。翻訳には欽定訳英語聖書(KJV)、ブリッジマン・カルバートソン漢訳聖書などが参考にされた(『日本聖書協会100年史』45～61ページ。日本聖書協会ホームページ、http://www.bible.or.jp/info/inf07_06.html、http://www.bible.or.jp/info/inf07_07.html、2003年8月25日)。

^{xii}『日本聖書協会100年史』108～111ページ。

^{xiii}『日本聖書協会100年史』102、103、111ページ。

^{xiv}ABSは北部日本、NBSSとBFBSは西日本を担当した(http://www.bible.or.jp/info/inf07_06.html、2003年8月25日)。

^{xv}『日本聖書協会100年史』117ページ。

^{xvi}口語訳が(日本のキリスト教会の)「自立への第一歩」であり、「歴史的意義を持つ」という評価は、すでにその完成当時にもなされている(都留仙次「聖書口語訳『新約』の部完成」『聖書と日本』第11巻第2号6ページ。[門脇236ページによる]。また田川もこの点は高く評価している、625ページ)。

^{xvii}『日本聖書協会100年史』168ページ。

^{xviii}『日本聖書協会100年史』196ページ。

E-mail : konishi@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp